

様式 1

授業科目 社会福祉援助技術各論 I A

科目コード番号

【担当教員名】 伊藤富士江	対象学年	2	対象学科	社会
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【概要及び学習目標】

<概略>

社会福祉援助技術各論 I は、個人、家族あるいは小集団に直接働きかける社会福祉における援助技術を扱う。各論 I A は、ケースワーク（個別援助技術）、グループワーク（集団援助技術）の意義・沿革・定義を理解し、その展開過程について学習する。

<学習目標>

1. 直接援助技術の基本原理・原則について理解する。
2. ケースワークの理論的発展、基本的枠組み、実践の過程を習得する。
3. グループワークの理論的発展、基本的枠組み、実践の過程を習得する。
4. 直接援助技術を活用する専門職者としての自己覚知について考察を深める。

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1	オリエンテーション	社会福祉における直接援助技術の位置付けについて理解する	講義
2	直接援助技術の基本原理	直接援助技術を展開するうえでの基本原理・原則を学び、援助者としての「自己覚知」について考える	講義
3	ケースワークの意義・定義	ケースワークの事例をもとにその定義と意義について理解する	講義
4	ケースワークの沿革	ケースワークの沿革について理論的変遷から学ぶ	講義
5	ケースワークの原理	ケースワークの事例をもとにその価値・原則について理解する	講義
6	ケースワークの構造と機能	ケースワークの構成要素を理解し援助者の機能について考える	講義
7	ケースワークの展開過程（1）	ケースワークの展開過程について学ぶ	講義
8	ケースワークの展開過程（2）	ケースワークの展開過程について事例をもとに理解する	講義
9	グループワークの意義・定義	グループワークの定義を学びながらその意義について理解する	講義
10	グループワークの沿革	グループワークの沿革について歴史の変遷から学ぶ	講義
11	グループワークの構造	グループワークを構成する要素とその機能について学ぶ	講義
12	グループワークの展開過程（1）	グループワークの展開過程について学ぶ	講義
13	グループワークの展開過程（2）	グループワークの展開過程について事例をもとに理解する	講義
14	まとめ	ケースワークとグループワークの体系を理解する	講義

【評価方法】

定期試験（50%）、レポート（30%）、出席状況（20%）の総合評価とする。

【履修上の留意点】

各論 I A は講義が中心となるが、指定された参考書を読みこなし積極的に授業に参加すること。毎回授業についての質問やコメントを書いてもらう。

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	『社会福祉援助技術論』	春見静子編著	光生館	2002年3月
参考書	『社会福祉基本用語辞典』	日本社会福祉実践理論学会編	川島書店	1996年2月 2,400円
その他 (プリント等)	学習内容にそって授業中にプリントを配布する			